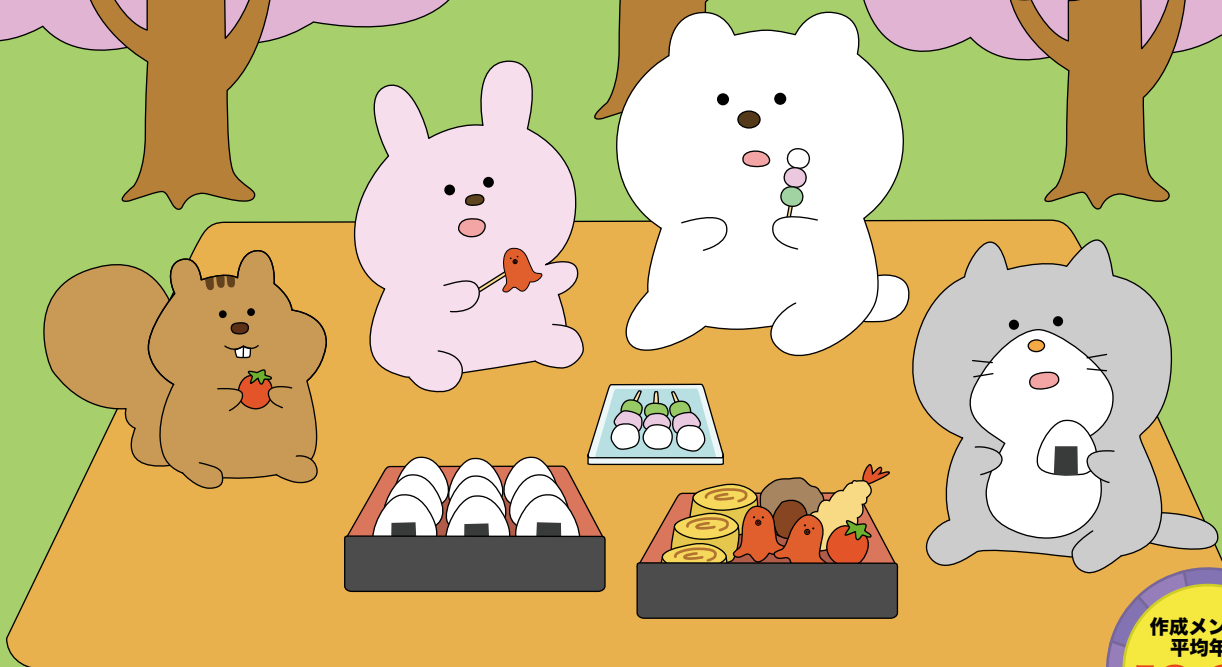


えぬびい! Oh!

2018 春
Vol. 68



作成メンバー
平均年齢

19.6歳

▶2~3P
NPO法人ワークスみらい高知の取組みを
~STRAWBERRYFIELDSとひだまり小路土佐茶カフェ~

▶4~5P
大月班の第一歩
~地域協働学部に新たな変化を~

▶6P
異なる世代の交流の場を!
~お兄さんやお姉さんと一緒に交通公園で遊ぼう!~

▶7P
「まちづくり」へのアプローチ
~学生という視点から~

NPO法人ワークスみらい高知の取り組みを STRAWBERRYFIELDSと ひだまり小路土佐茶カフェ



美味しくリーズナブルなケーキの
お持ちかえりもできる。

働きたい障がい者の支援などを行っているNPO法人ワークスみらい高知。この度、2つの事業所、STRAWBERRYFIELDSと土佐茶カフェ・もっと茶の取材を行った。この二店は障がい者（以下利用者）の支援の場。利用者が実際の仕事を通じて一般教養・一般常識・エチケットを身につけることを目的としている。

1つ目の事業所は高知市神田にあるSTRAWBERRYFIELDSというカフェ。工場とカフェが併設しており、カフェから工場の様子を見ることが出来る。利用者は工場とカフェで働いている。

「私たちは障害に甘えることなく日々ケーキを作り、売っています」

そう話してくれたのは、取材に応じてくれた工場長の野田光一^{（のりいひかり）}さん。

■品質には妥協をしないのがポリシー

二人の男性のスタッフが引ッ張ってくれているこのケーキ部門。「良いものをお客さんに提供したい」というスタッフの思いが、美味しいケーキを作り良い事業所へと導いていった。そして今では、全国から沢山の利用者支援の方が見学に来る事業所となった。

この工場で作られている《さくらさく》というスイーツブランドは、高知県のスーパーにも置かれている。利用者がよく利用する場所でも自分の作ったものを見ることがやりがいに繋がっている。

野田さんは「私が配合を間違ったら、利用者に怒られることもあります」と笑いながら話してくれた。目指すは、利用者が仕事を通じて楽しいと感じる事業所だ。

■意識の持ち方の違い

工場長やスタッフの中には一般の職場から支援の場に入った人が数人いる。一般の職場と支援の場では、意識の持ち方の違いがあり対応に困ることもあったという。工場長の野田さんは日々「挨拶、笑顔、言葉遣いを大事に」と指導している。失敗や出来ないことは叱らず、褒めてモチベーションを伸ばすようにしているとのこと。嘘などをついた時は叱るが、利用者を追い込まないよう指導している。憩いの場や逃げ場になる事業所ではなく、仕事を通じて生き甲斐がもてるようになる事業所を目指している。

■お値打ち感とお客さんの声

STRAWBERRYFIELDSは女性をターゲットにしておりカフェの雰囲気は女性好みのもの。3ヶ月に一度変わる基本メニューに、2ヶ月に一度変わる女性にオススメのカフェメニュー、毎週水曜日は女性限定でワンコインメニューを取り扱っており、とても充実している。

また、常にお客さんのニーズを考え様々な企画を実行している。色々なものを1つずつ食べられるワンコインDAY（火曜日）、当日に注文して当日に受け取れるアニバーサリーケーキ、これらは全てお客さんの要望を形にしたものだ。それに加え、イベントやフェアも毎月継続して行われている。

そして、お値打ち感も魅力の一つだ。千円でケーキが食べ放題のスイーツビュッフェ（90分）や、リーズナブルな価格のケーキを満喫することができる。

■これからの目標

工場の目標はケーキの専門店になること。現在安いケーキは沢山取り扱っているが、高いケーキも作りケーキだけを買いにきて頂ける店にしたいとのこと。もう一つは独創的でお客さんに喜んで貰えるカフェ。

2017年のクリスマスにはクリスマスケーキ160台含め、730万を売り上げた。また、事業全体で年間3700万から5700万の売り上げが出ている。地域NO.1のケーキ屋を目指しこれからも美味しいケーキを作り続けていきたいと思っている。



ゆったりとした落ち着いた雰囲気店内(もっと茶)。

■野田さんからのコメント

一度、見に来てください。来てみてわかって貰えば幸いです。他のケーキ屋と同じ所にてるよう一年一年計画を立て、目的を持って失敗しながらも一つ一つ行っています。客のニーズを追求する店・工場にしていきたいと考えています。支援に関しては一般社会と変わらない支援・指導をしています。

2つ目の事業所は高知市帯屋町にあるひだまり小路土佐茶カフェ(以下土佐茶カフェ)。高知県のお茶を中心に扱っており土佐茶を広めたいという目的でオープンした。1階には丼ものや御膳などのご飯ものと甘味、2階には甘味をメインに扱う【もっと茶】がある。取材に応じてくれたのは店長の山崎朝さんと主任の永吉利帆さん。

■美味しいお茶を飲んでもらいたい

この店のこだわりはコーヒーを扱っていないこと。その理由は、もっとお茶を飲んで欲しいという思いから。お客さんに美味しいお茶の飲み方を伝えていくことがこの店の使命だ。

土佐茶カフェでは高知の食材を扱っている。それにより、より多くの人に高知の茶葉を知ってもらえる。観光のPRにもなり、高知の茶農家さんの活性化にも貢献することができる。今まで以上に消費者の方に急須でお茶を飲んでもらえる。

イチオシのメニューは、1階の日替わりランチメニューと2階の、もっと茶のアフタヌーンティーセット、



色々な甘味が楽しめる《もっと茶のアフタヌーンティーセット》

■これからの目標

支援の目標は、利用者が他の職場でも働けるようになること。環境に負けない人になって欲しいとのこと。スタッフは利用者に積極的にお茶に関わって貰いたいと思っているが、いくつか課題がある。工夫を凝らし、もっと利用者やスタッフがよりよい環境で働けるようにしていくことがこれから目指すところだ。

土佐茶カフェの目標はお茶を急須で飲むことが当たり前になること。もっと茶の目標はお客さんに土佐茶を知ってもらえるようなメニュー作りだ。土佐茶自身と土佐茶を使った甘味の普及を目指している。

山崎「お茶を家庭でも飲んでください」

永吉「沢山のお客様に美味しいお茶を飲みに来て頂きたいです。」

■取材を終えて：

利用者とスタッフの方たちが生き生きとした表情で一生懸命働いている姿を沢山見せていただいた。一つ一つの仕事を大切にやり組んでいるということがこちらにも伝わってくるとともに真摯に仕事をする姿に胸をうたれた。

最後に取材に応じてくださった皆さんにお礼申しあげたい。

(毛利)

ひだまり小路土佐茶カフェ・もっと茶

高知市帯屋町 2-1-31

定休日 水曜日

営業時間 11時～19時

STRAWBERRYFIELDS

高知市神田 1130-6

定休日 木曜日

駐車場 10台

営業時間 9時から17時

大月班の第一歩

～地域協働学部に変化を～

■大月班とは

高知大学地域協働学部には、各学年がそれぞれ6つの実習地を持ち、60名の学生が選考の元、6つの地域に分かれ、活動している。今回取り上げるのは、地域協働学部にも所属する二期生の中で、大月町柏島を拠点に活動するNPO法人黒潮実感センター（以下実感センターとする）と協働して活動する10名の学生グループである。

実感センターの活動内容は、柏島を拠点とした環境保全活動や子どもを対象にした環境教育活動が主なものである。この大月班が結成されたのは昨年の2月で、班としての活動がスタートしたのは翌月の3月である。また、来年2019年の2月をもって学部のカリキュラム上、この班としての活動は

終わりを迎える。

その期間、カリキュラムとして定められたノルマや獲得スキルはあるものの、それ以外はその実習

班によって、授業の枠内外で行う活動の量や内容はまったく異なる。今回、約一年間の大月班の活動の紹介をしつつ、地域協働学部に対する思いを



メンバーがデザインのスキルを教わっている様子。

述べていこうと考える。

■FORCO設立

大月班として地域で活動していく上で、どうしても授業の一環として取り組んでいるという受動的な学びから能動的な学びへと意識を変えていく必要があった。そこで、地域の魅力を発信していくという思いを込め、「FORCOMMIT（一緒に）」や「FORCOUNTRY（地域のために）」といった意味を持つ「FORCO（フォルコ）」という団体を設立した。自分たちの活動を団体としての活動にすることで、学生自身のモチベーションを上げると同時に、外部に対して、地域協働学部の活動ではなく、「FORCO」の活動として認めてもらうことを目的としている。

そんなFORCOは実習外で、土曜夜市や地域の協働マルシェなどに出席し、活動するための資金の調達や地域情報誌『FORCO』を発行し、文責やデザイン、撮影などのスキルを身につけるなどの活動を行っている。昨年10月からは本格的に授業のカリキュラムの中で実感センターと協働して二つの事業を企画・実施することになった。大きく分けて一つが実感センターという組織とセンター長である神田優（かんたまさる）の両方のブランディング、もう一つは実感センターが行う環境教育事業の範囲拡大に関する協働事業である。

■ブランディングパンフレットの作成

ここでのブランディングパンフレットとは、実感センターと神田優に焦点を当て、組織や活動の紹介、過去の経歴などをパンフレットとして可視化したものである。メンバーが作成に至った理由

は二つある。一つは実感センターの基本的な情報を知ることができているものが現在なく、作成してほしいというニーズが実感センター側にあったことである。もう一つは、「神田優」という人物はお魚博士として全国的に知名度があるにも関わらず、「黒潮実感センター」に関しては高知県内においても、組織や活動の認知度がさほど高くないという現状にある。そこで第三者の視点から「神田優」に焦点を当てた内容も盛り込もうと考えたのである。

昨年3月からデザインなどのスキルを身につけてきた大月班のメンバーは、文責や写真撮影、インタビューなどメンバー間で役割分担を行い、パンフレット作成に取り組んだ。そして、実際にメンバーは神田氏本人や神田氏に関連のある人物とコンタクトを取りながら情報を収集し、文責やデザインを進めていった。その中で肖像権の問題や神田氏の伝えたいことをきちんと盛り込むことができていたのかなどの注意点多く、大変だったとメンバーは口にする。しかし、関係者の多くがパンフレットの作成に「楽しみ」に近い期待を寄せていたという。



パンフレット作成に関するミーティングの様子。

※ブランディング：共感や信頼などを通じて顧客にとっての価値を高めていくこと。

そうしてメンバーは苦勞を乗り越え、1月27日に無事発行することができた。

■海の寺子屋プロジェクト

大月班の受け入れ組織である実感センターは現在、柏島をフィールドとして子どもを対象にした環境教育事業「海の寺子屋」を毎年開催している。センター長の神田優氏は、将来的に高知市内を中心として県内全域に広げていきたいという思いを抱いていた。しかし、現段階では高知市内に協働パートナーとなる教育機関もなければ、活動を行えるよ



親子参加型ウィンタースクールの様子。
(2017年12月23日、高知大学朝倉キャンパス)

うな基盤もないといった課題が存在する。そこで大月班は元々大学として関連の高知大学教育学部の附属幼稚園と協働して関係形成を行いながら試行実践を繰り返していく中で、将来的に実感センターが活動を行いやすい基盤を構築しようと考えた。実感センター側には協働パートナーがほしいというニーズがあり、一方で園側も近年南海トラフ地震による津波の危険性を懸念し

て園児が園の外で自然と触れ合うなどの活動が行いにくい現状にあり、そこに実感センターという専門家という立場が加わることによって、その懸念を軽減したいと思っている。

海の寺子屋PJとは、学生が中間支援という立場で実感センターと教育機関をつなぎ合わせることによって、互いにWIN-WINの関係を形成しようという取り組みである。企画の立案やマネジメントは大月班の学生が行い、その内容に関しては附属幼稚園の谷協のぞみ副園長や実感センターの神田氏と話し合いながら行っている。昨年の12月23日には、高知大学朝倉キャンパスにて附属幼稚園の園児を対象にした「親子参加型ウィンタースクール」を開催。この親子参加型ウィンタースクールとは、FORCO主催で行った親子参加型イベントで、そのプログラム内容はオリジナルマグカップの作成や、靴下を再利用した人形作りである。このイベントは「海の寺子屋PJ」のための試行実践の一つであり、現在FORCOは次年度に予定している次なる試行実践に向けての準備に励んでいる。

■地域における協働とは

最後に、FORCOのメンバーが考える「協働」について述べようと思う。大月班のメンバーが所属する高知大学の地域協働学部は様々な地域に足を運んで、地域の人々と共に農作業やイベントの運営の手伝いなどのサービスマーケティングを行っている。これももちろん一つの「協働」の在り方である。しかし現在、地域の人々から彼ら学生に向けてられた「協働」の捉え方がこの一つに固執して

いないだろうかということにメンバーは懸念を抱いている。彼らは、直接的な支援だけが「協働」であるとは思っていない。それは彼らの活動にも表れており、メンバー自身が組織や地域のために何ができるのかを自分たちで考え、活動している。以前に説明した二つの企画は地域や組織、特定の人物に対して直接的な支援ではなく、間接的な支援だとメンバーは捉えている。

確かに自分たちは「協働」という言葉に対して容易に捉えすぎていたのかもしれない。地域の人々に寄り添って手助けをすることも「協働」であるなら、間接的に地域で活動する人や組織を陰で支えることも「協働」といえるのではないだろうか。

(高知大学 地域協働学部 有光七月)



大月班の学生たちと担当教員の石筒寛先生(写真右端)

異なる世代の交流の場

～お兄さんやお姉さんと一緒に交通公園で遊ぼう！～

毎月第1・3土曜日の午後3時から4時に高知県立交通安全こどもセンター（以下、交通公園）で学生ボランティアと一緒に遊ぶイベントが行われている。なかなか一緒に遊ぶ機会のない年の離れた子どもたちの交流の場になればと企画された。鬼ごっこやシャボン玉、夏には水遊び、お正月には昔遊びなどが行われ、夏の水遊びでは学生ボランティアが全身ずぶ濡れになるほどみんなで楽しく遊んでいるそうだ。今回は、1月6日に行われた昔遊びに参加し、山崎勇人さん、門田知世さんにお話を伺った。

■交通公園とは？

イベントの開催地である高知県立交通安全こどもセンターは、昭和45年5月5日のこどもの日にできた。交通事故死亡者が日清戦争の死者を越えた交通戦争と呼ばれた時代に、交通ルールを学んでもらうために作られた。公園内には信号



機や横断歩道があり、定期的に子どもたちに向けた交通安全教室も行われている。また園内にはゴーカートコースがあり、交通公園で大人気のゴーカートに乗車（有料）できる。

■昔遊びに挑戦！

3時になり放送で「昔遊びを行いますく・・・」というアナウンスが流れると共にたくさんさんのこどもと保護者たちが集まってくる。この日用

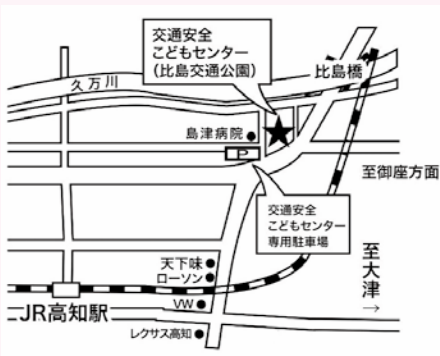
意された遊びは、地面にチョークでお絵かき、竹馬、コマ、けん玉、おじゃみだ。こどもたちは思い思いに興味のある遊びをする。その横で見守る保護者達もこどもにやり方を聞かれると、真剣にやり方を思い出そうと必死だ。



■参加してみた！

私自身、久しぶりに訪れた交通公園にとっても懐かしい感じがし、私の記憶の中では大きかったはずの遊具も小さく感じたり、時間の流れに気づかされた。コマやけん玉を6年ぶりぐらいに遊んだが、自然と体が覚えていて成功した時にはとてもうれしく周りのこどもたちと一緒に夢中になってしまった。

（大久保）



高知県立交通安全こどもセンター
（指定管理者：NPO 法人たびびと）
高知県高知市比島町4丁目8番地
TEL 088-822-0777

「まちづくり」へのアプローチ

学生という視点から

2018年1月22日、公益信託 高知市まちづくりファンド助成事業（以下、まちづくりファンド）の2017年度中間発表会が行われました。今回、発表会に参加するとともに、「学生まちづくりコース」の助成を受けている団体にインタビューを行いました。

■発表会の様子

どの団体もユニークかつ魅力ある方法でまちづくりをしていることが分かり、もっと深く知りたいたいと思わせるような発表でした。



発表の様子—
高知大学ほたる飛ばし隊!!

意見交流では、良い点や改善点、質問などがたくさん寄せられ、各団体・参加者の両者にとって有意義な時間だと感じました。

■学生による「まちづくり」

取材にご協力いただいたのは、「高知大学ほたる飛ばし隊!!」所属の國武桃さんと、学生団体「KOCHIのZOU」のZOU所属の中島美宝さんです。お二人には以下の質問に答えていただきました。①活動内容 ②活動で得たもの、やりがい ③これからの課題 ④学生がまちづくりをするということについて



意見交流の様子—
学生団体「KOCHIのZOU」

☆まちづくりファンドについては、ウェブサイト

「公益信託「高知市まちづくりファンド」—高知市市民活動サポートセンター」をご覧ください。

國武さん：①朝倉周辺でのほたる生息地

マップを作り、環境への興味を持ってもらう

②知らなかったことを教えてもらえる ③観

察会などのイベントの日程を載せたパンフ

レットを作りたいが、天候によってずれるこ

とがあるので解決したい ④大学が学生団体

を支援していることをもっと知ってほしい

中島さん：①地域活動に参加する学生の増

加を目的に、下知地区で地域の人と交流する

②地域活動に参加している方の思いや人柄

に触れられる ③広報の強化、楽しいことが

多い大学生活の中で、どう地域活動に引き込

むか ④勢いを強みに励む

他にも貴重なお話をたくさん伺うことがで

きました。

■取材を終えて……

今回、中間発表会に参加し、高校生から祖父母世代の人までが「まちづくり」に意欲的で、驚くと同時に素晴らしいと思いました。

大学生は県外出身の人も多く、人の入れ替わりも激しいので、団体を立ち上げても継続して活動していくのは難しいと思います。しかし逆に、常に新しい風が吹いていると考えることもできるのではないのでしょうか。フレキシユサ・柔軟さを武器に、大学生のボランティア活動が広まっていけばいいなあと思いました。



地域の方との勉強会—高知大学ほたる飛ばし隊!!



おみこしも、みんなで作ります—
学生団体「KOCHIのZOU」

最後に、取材にご協力いただいた國武さんと中島さんに厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。
(高知大学人文学部 鈴木彩野)

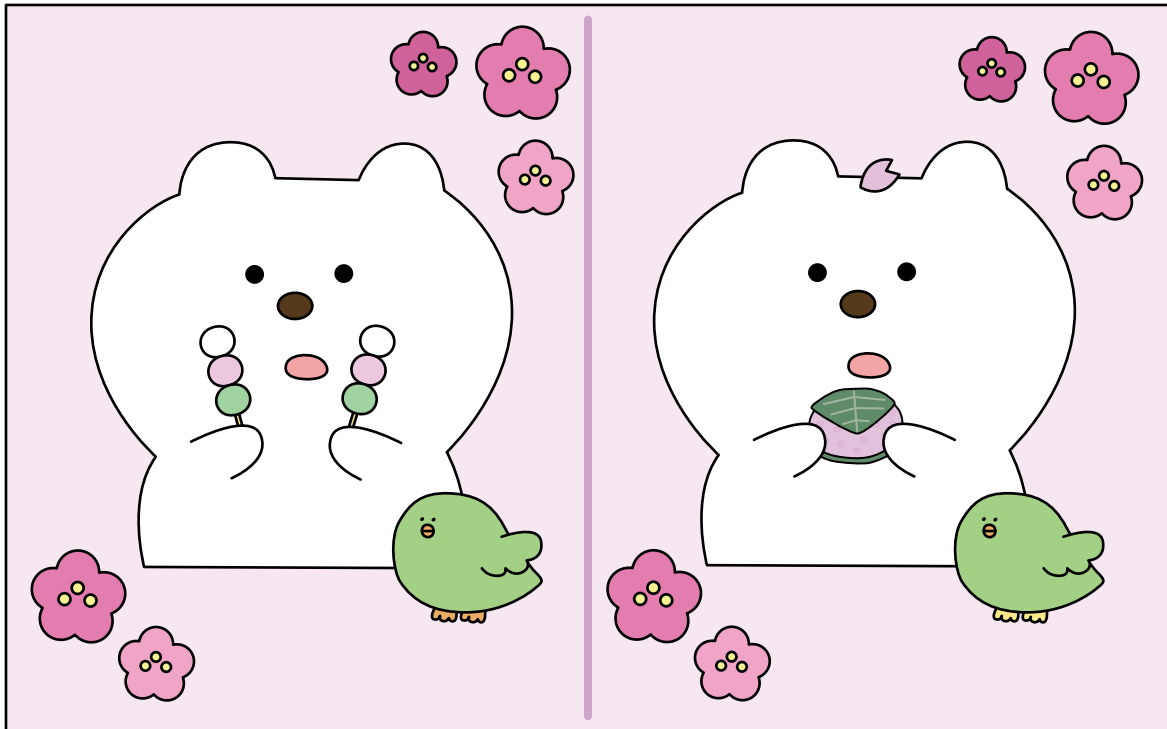
お問い合わせ

高知大学ほたる飛ばし隊!!
grasshopper0219@ezweb.ne.jp (國武さん)

学生団体「KOCHIのZOU」
http://kochinozou.web.fc2.com/
Facebook…KochiのZou

まちがいさがし

この2つの絵には3コマちがいがあるから見つけてみてね。

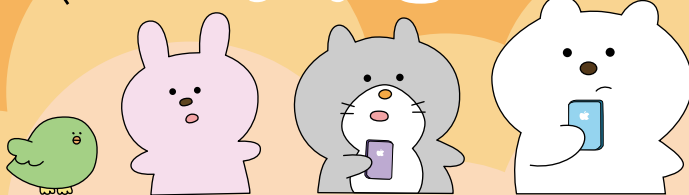


答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。

URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

つぶやき



発行 高知市市民活動サポートセンター

企画編集 認定特定非営利活動法人 NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : info@siminkaigi.org

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



@浦井

下手の横好きが高じて毎年3、4箇所のスキー場に出かけています。滑ることよりもビールを飲んで美味しい物を食べて温泉に入るのが楽しみです。



@おおの

思いつきと勢いだけで文章を書くことが多いけれど、柔らかい文章に憧れる今日この頃。いつか大福餅のような文章を…!!



@森岡

出張で全国各地を訪ねていると、人々の営みが地域の歴史を紡いできたことが分かる。今年はNPO法施行20年。私たちはどんな歴史をつくって行けるのだろう。



@しのみや

インフルエンザ、鹿児島で発症。前地の船渡でもらったにちがいない。タミフルを抱きながら、誰一人知らないのいない安宿の布団の中で二日間蹲る。



@たまき

必要が生じ、久しぶりに語学に取り組みます。AIによる進化を期待していましたが、自動翻訳を見るとまだかきりそう。頑張れAI。



@横田

わらび、ふきのとう、菜の花…アクや苦みのある山菜や春野菜、いつから待ち遠しく感じだしたのだろうか?…お酒が美味しいと感じだした頃だ。



@のむ

このところ、なぜか断れない用事が重なる。やっと大波を越え安心してると、次々小波がやってくる感じだ。油断大敵。一体何を試されているのだろう。



@みやわき

どこでもいいから遠くへ行きたい、見知らぬ町の食堂にふらりと入ってみたい……暇があれば旅番組を視聴。これを逃避と人は呼ぶ。